

# The Gallery

2006 (平成18) 年 1 月 22 日 (日)

発行・相模原市議会をよくする会

12月定例会版

## 議会傍聴団体の初交流会開く

本会が近隣 5 市町の代表者招き

昨年 1 月 20 日、「相模原市議会をよくする会」の呼びかけで、小田急線と JR 相模線の沿線に近い愛川、海老名、茅ヶ崎、秦野、松田の 3 市 2 町の議会傍聴を中心に活動する団体が集まり交流会を開いた。会場は相模原市民会館、参加した代表者は元市議会議員を 2 名を含む 18 人。本会からは 10 名が参加した。

交流会は、始めに総合司会の本会渡辺登志子副代表が、会の目的は情報交換であることを伝え、挨拶にたった赤倉昭男本会代表からは、今回は試金石的な試みであるが、日頃の思いを大いに語り合ってほしいとの要望があった。

会は最初に各地の近況報告から行ったが、次いで予め 3 つのグループに分けられた参加者による討論・議論が行われた。テーマは傍聴制度と政務調査費に絞られた。傍聴制度については、傍聴時に審議資料が配布・貸与されない所が多く、また委員会が無条件に公開されているところは少なかった。

政務調査費の領収書問題では、本会の赤倉代表が「使わせません、見せるまで」の姿勢で望むべきだと発言した。参加者は異口同音に「領収書を見せるのは常識だ」と語った。

各自治体の独自性もあり、限られた時間内での十分な意見交換・相互理解は出来なかったが、次回はより広い地域に参加を呼びかけ、実り多い交流会への発展を期待して夕刻終了した。

- 出席団体 (市町名・50音順)
- 愛川町 (これでいいですか愛川町)
  - 海老名市 (えびな市民オンブズマン)
  - 相模原市 (相模原市議会をよくする会)
  - 茅ヶ崎市 (フォーラムちがさき)
  - 秦野市 (はだのオンブズマン会議)
  - 松田町 (オンブズマン松田)

2005年 (平成17年) 11月21日 月曜日

新 川 奈 申

### よりよい政治 実現をと議論

相模原で市民オンブズマン

県内六市町の市民オンブズマンが一堂に会した意見交換会が二十日、相模原市中央の市立市民会館で開かれた。活動する上での課題や議会傍聴制度の問題点など「よりよい地方政治実現のためにできること」をテーマに議論が交わされた。各団体の活動活性化を目的に、「相模原市議会

をよくする会」(赤倉昭男代表)の呼び掛けで初めて開催。相模原、海老名、茅ヶ崎、秦野、愛川、松田の六市町から計十八人が参加した。意見交換では、各市町議会の現状を比較した上で、「閉鎖性の打破に向け、積極的な情報開示を求めめるべきだ」「議員もオンブズマン自身も、もっと勉強が必要」と積極的な議論が展開された。「最近、委員会を戦わせたオンブズマン

熱い意見を戦わせたオンブズマン  
相模原市立市民会館



# 傍聴報告・12月定例会

■ 本会議（感想と意見）（11月21, 30日, 12月20, 21, 22 日の6日間）

1. 沼倉議員（市政クラブ）が、委員長報告で「イマシ」「イマシ」と言うので、なんのことかと思っていたら、どうも合併後の相模原市を「新市」と言うのに対し合併前のことを「今市」と言っているようだった。こういう用語があるのか？
2. 久保田義議員と山下議員（ともに市政クラブ）が座席替えをした。山下議員と隣の折笠議員は沼倉議員の発言中、なにやら身を寄せ合って話し合い。久保田議員は、これまでは左端で顔と体を右に向けて議場を傍観していたが、今度は最後列中央から眺めることが出来るようになった。でも、背中ばかりじゃつまらないかな。
3. 須田議員（市政クラブ）「ニイマチ」とか「ニイマチの方々」と言うので、よく聴いていたら、今度合併する津久井町と相模湖町の「2町」のことと分かった。
4. 菅原議員（公明党）が文教委員会報告で、施設が非効率に使われていて、税金の無駄というようなことが話し合われたとか。市議はぜひ、そういうことを質して行ってほしい。
5. 議員が読み上げる委員長報告というのは一体だれが作成しているのでしょうか。「イマシ」あり「ニイマチ」あり、傍聴者は聞き取りが大変だ。
6. 東條議員（無所属）が議案への反対討論。合併によってもたらされる負担をよく検討せずに進めている弊害を指摘。人口が7%増加に比し、市職員が16%増になる。合併後2町の介護費用は値上がりになるなど、刺激的な内容のせいか、寝る人がいなかった。
7. 岸浪議員（市政クラブ）は聴く側のことを考えて、読むにあたって、文章のどこで区切るのかを前もってチェックしておいてください。「失礼ながら、老朽化の見られるものもあります」などは、議員らしからぬ言い方だ。
8. 大沢議員（民主クラブ）は賛成討論。いつもながら、自己陶醉型の前段が長すぎて沢山のヤジ。合併について、当人はこちらが聞いていてわからない実体性のない要望をして、市には具体的に進めてほしいという。 I may say you are a dreamer. 他の会派の団結的な拍手にくらべ民主クラブでの仲間への拍手は寂しい。
9. 松永議員（共産党）は合併について、問題を先送りして進めているのは大問題と。当て込んでいた地方交付税が減るという話だ。また、市営住宅の滞納家賃の徴収を指定管理者でなく、市が直接するようにと要望していた。
10. 友成議員（社民党）の話の内容は分かりやすく興味深い。合併が飛び地になったので反対した。可決されたので議会制民主主義に基づいて賛成してきたが、条例と違う点がかなりあると指摘。想定していなかった費用がかかると分かった。医師の年収が相模湖町では2000万円、津久井町では1500万円町長より高い。条例改正で1600万円になる。だから何なのかよく分からなかったが、全体としてこれが賛成討論とは信じ難い。
11. 阿部議員（市政クラブ）は子どもの安全に絡んだ質問で、CAPとかCAPプログラムとか言っていたが、特殊用語は傍聴者にも分かるように、はじめに一言説明すべきだ。彼が「私は相模原を愛する気持ちは誰にも負けません」というのは勝手だとしても、「例えば、『大好きです、さがみはら』と市職員が首から下げるカードに入れたら」という提案には絶対反対だ。恐ろしい。
12. 長友義議員（無所属）が市長の長期休暇に言及。天皇の園遊会や大臣との面談には出るのに、議会は休むのかと。鶴野森斜面緑地、橋本D地区優良建築に絡む土地処分や公共下水道工事に関する裁判についてなど、市の失態ともいえる一連の問題を的確に表明した。実があって聞くに値する。
13. 由比議員（市政クラブ）は選挙投票率の向上策について、「選管は投票率の向上をあきらめているようだ」とか「選管には大きな期待をしていない」とか、変わった言い回しというか、なんとも情けない言い方をする議員さんだ。支持団体のある組合から「投票済証」を発行するようにしてほしいと頼まれたとか。それを組合に示して投票の証にするらしい。票読みに使うのだろうが、持っていったら動員手当てとか貰えるものかと思ってしまう。
14. 菅原議員（公明党）は原稿の早読みが得

意なひと。内容は実に生活者支援の公明党型。築33年の消防本部庁舎の建て替えを要望したところ、加山助役から、あっさり「そのつもりはない」と返された。

15. 川田議員(市政クラブ)は、銀河アリーナを夏のプールを止めて通年化にすべしと4年前から言っているとか。その間、1億円も無駄に投じているとか。「そんなことないよ」と民主クラブから声が出た。
16. 加藤議員(公明党)は乳幼児医療費助成の拡充について、未就学児の間は所得制限を撤廃するべきだと言っていたが、別にお金持ちにまで助成する必要はないじゃないですか。議員さんたちも貰いたいのか勘繰ります。
17. 加山助役が、加藤議員の質問への答弁文がかなりの長文で、それを急いで読み上げるので、余りにも棒読みだった。
18. 東條議員(無所属)はニュースの解説のようにフリップ持参で、南清掃工場建替と合併関連のごみ焼却の予定量について解説。その細かな追求は、大事な役回りを果していると思う。
19. 藤井議員(共産党)は、市が発注する工事で働く労働者からのピンハネをなくすために公契約条例を制定したらどうかとの質問。市は「国がやっていないので考えていない」と答弁していた。
20. 長友克議員(民主クラブ)は無所属の長友義議員と親戚ときく。言っている内容がかなり重なっているのだから、同じ会派になればいいのと思ってしまう。
21. 田中議員(共産党)は駅前公衆トイレの必要性を説く。設置に3000万円、維持に年間300万円かかるが、十分に利用されているそうだ。あれば便利だが、幾つ作れる財源があるのか調査済みですか。

■今定例会の居眠りが目立った議員:

米山定克、佐藤賢司、長友克洋、寺山猛大沢洋子、川田基晶、山下昌志、小俣旭

■今定例会の離席が目立った議員:

佐藤賢司、溝渕誠之、山下昌志、稲垣稔長友克洋、長友義樹、菅野通子、岸浪孝志、今井 満

22. 由比議員(市政クラブ)は18名ほどの支援者と面談のため、本会議を抜け出していたが、須田議員とともに議会というものを軽視。須田議員は少し同僚議員や空

気に慣れてくるとこうなるのか。市民の目を恐れなくなっている。尺八演奏がうまいとの評判で、会派内で多少の事は許されるとの考えは甘い。

23. 答弁にたつ当局(市側)の担当部長たちの蛇足に等しい饒舌は問題だ。質問に誠実に過不足なく答弁する躰が必要だ。
24. 今井議長は山崎副議長との交代後は、相変わらず議席に戻らず、どこかで休憩している様子。この悪習はいつまで続けるつもりか。議長の特権というなら、直ちに剝奪した方がよい。
25. 長友克議員(民主クラブ)が、境川斜面緑地問題で、市側が「議会のご理解をいただいた」というならそれは間違いで、議会は理解していないと、市側の態度を非難した。いわゆる「ご理解いただきたい」という役人言葉は、逃げるときの常套句だが、そろそろ止めさせるべきだ。長友議員はいいところを突いていた。
26. 今定例会も多くの課題が議員から提出されていたが、解決策の提案・提言が聞かれなかった。問題の羅列ではなく、どうするかを市側に質すだけでなく、自ら調査した結果に基づいて、目を見張るような発言やアイデアを出してほしい。
27. 関山議員(公明党)の一般質問は、自分の考えの披瀝でなく、他人のことばや他自治体の例を長々と紹介するだけ。それを単調に読むだけの質問はとても聞きづらい。

6ページに続く→

★今定例会の会派別一般質問実績★

市政クラブ	5人
共産党	4人
公明党	3人
無所属	3人
民主クラブ	1人
社民党	1人
ネット	1人

計 18人

陳情計画

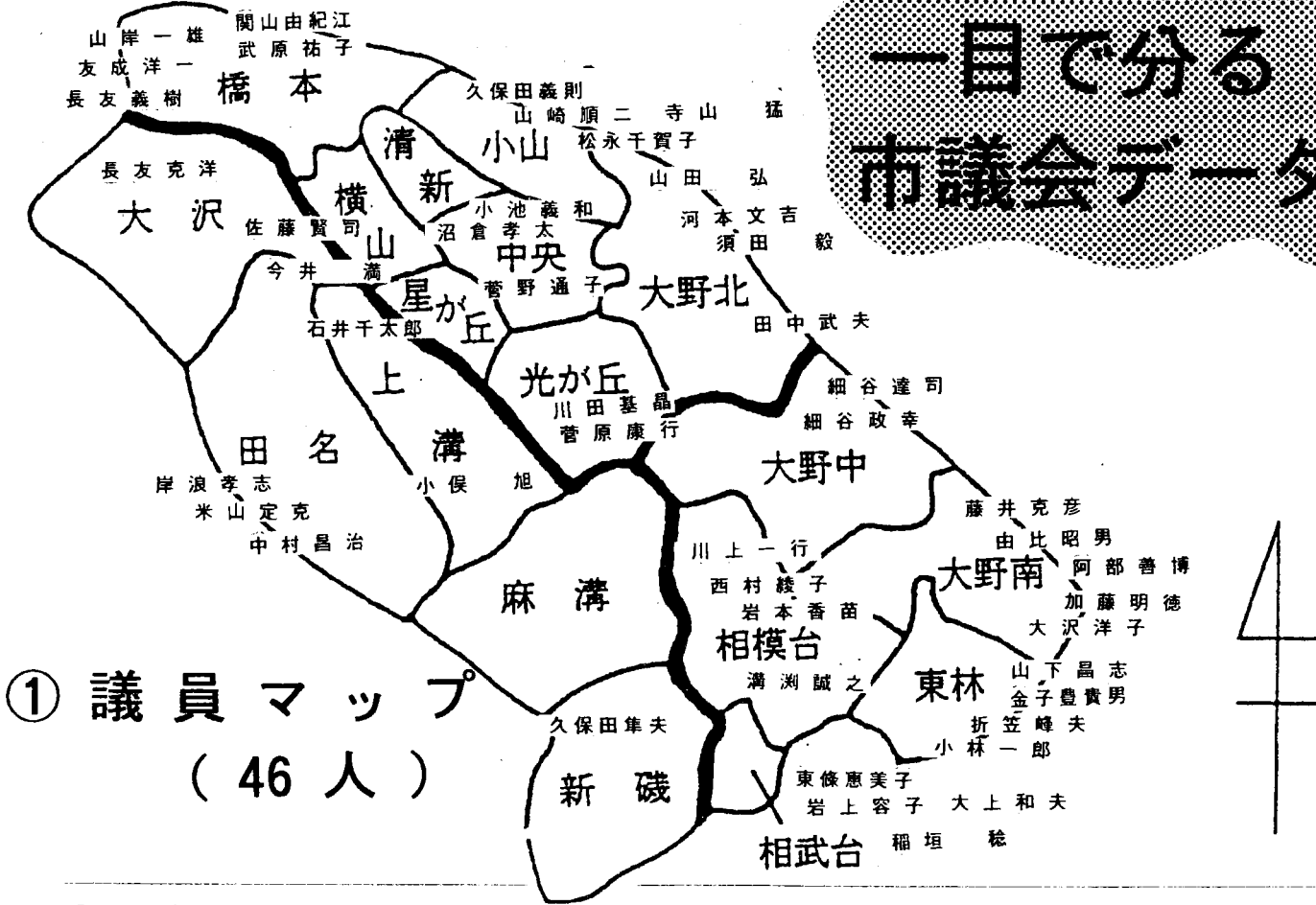
「相模原市議会をよくする会」では、3月定例会にむけて、市側と議員全員が重要問題を話し合う、通称「全員協議会」の傍聴を求める陳情を提出します。結果は次号にて報告します。

<p><b>観察・分析を続けたい</b> 渡辺登志子</p> <p>現在、市議会議員46名。この中で議員になる前に我々のように議会傍聴をしていた人はいるだろうか？私にしても当会に入会して初めて、じっくりべったり見聞する機会を得た。始めは“相模原市”という会社の役員会議にオブザーバーとして末席にいる平社員のような気分だったが、一年もすると、出席者や会派の特徴もわかり、全体が見えるようになった。そして独特な世界と知った。</p> <p>「相模原市議会をよくする会」の理念に沿って、諦めることなくもう少し観察・分析を続けたい。</p>	<p><b>スピード感ある議会を</b> 中山貞望</p> <p>17年度の議会は3月定例会を残すが、合併関係議案に終始しそうである。入院加療中にもかかわらず小川市長が命をかけて反対すると発言した基地問題と昨年10月から俄に全国的な問題として耐震強度偽装事件で多くの市民に不安を与えている問題に、市議会としてどう対応するのか重大な関心事である。広い視野から適切な質疑をする迫力ある議員は感銘を与えるが、大会派議員のマンネリ化した質問は傍聴者をガッカリさせる。懸案事項をテキパキと処理するスピード感ある議会を期待する。</p>	<p><b>理想議会の実現を</b> 赤倉昭男</p> <p>来る年くる年、相模原市議会はわれわれの期待を裏切ってきた。第一に、「議会制度検討協議会」のお粗末。たかが自分たちの議会運営のルール作りに丸2年もかけ、何も実現させられない。第二に、議会の行政チェック機能の喪失。市当局がやると決めればそれが結論と言うわけだ。議会での審議は時間の無駄になる。</p> <p>それでも諦めない。全員協議会の傍聴、政務調査費領収書の公開、「議会だより」の改善などが実現すれば、理想の議会にいま一歩近づくからだ。</p>
--	--	---

★ 2 0 0 6 年 頭 に 見 る \*

<p><b>市民感覚で分かる議会を</b> 篠田房枝</p> <p>当会の陳情等で市議会の改善(革)が大分進んだ。しかし、未だに納得できないこと、理解しかねることがいくつもある。本会議での「3問目」が要望で終わること。法的な位置づけのない「全員協議会」が、実際には重要な場であって、それが非公開であること。更に、議会運営の方向が「議会制度検討」の名のもとに活性化や民主化に逆行する傾向を示していることもだ。議会は特別な場ではなく普通の市民感覚で納得のいく、わかり易い議会であることを望む。</p>	<p><b>我々の責任も増す</b> 吉川隆之</p> <p>昨年初めて市議会の傍聴に参加しましたが、ネットによる動画配信が議会の一部を切り取った映像に過ぎないことを痛感しました。議会を傍聴する市民活動が全国的な広がりを見せている昨今、「よくする会」の社会的な重要性や責任も日を追うごとに増しているように思います。相模原市はこの3月に合併を控え、市政(というより地方政治そのもの)が大きな転換点を迎えます。市議会の運営や市議の言動により細かな監視の目を凝らし自分の力量で出来る事を少しでもしていきたいと思っています。</p>	<p><b>重い議会の合併承認</b> 二川昭三</p> <p>平成の大合併の波に乗り市長不在のまま百年後？を見据えた全国でも珍しい飛び地合併を強行した議会。残り2町も合併促進。採算を無視した合併弊害がすでに表面化。行政職員は18%増。高齢者世帯30%以上の3町。既に特養ホーム建設の要望が出ている。人口12%増、その他将来分析をすると、旧市民は合併借金のみ。合理化・スリム化目的が逆行している。将来像が全然見えない。小さな政府は倒産に追い込まれるのか？議員の一部世代交替が必要ではないだろうか。「大厦の材は一丘の木にあらず」</p>
--	--	---

# 一目で分る 市議会データ



① 議員マップ  
(46人)

## ② 会派人数

会派名	会員数	(%)
市政クラブ	22	(48%)
公明党	8	(17%)
日本共産党	5	(11%)
民主クラブ	4	(9%)
社会民主党	2	(4%)
神奈川ネット	2	(4%)
無所属	3	(7%)

## ③ 一般質問数

(平成16年12月～17年9月までの4定例会合計)  
質問者 (%)      質問比率

↓	20	(28%)	58%
→	12	(17%)	100%
↑	14	(19%)	172%
↑	8	(11%)	122%
↑	6	(8%)	200%
↑	4	(6%)	150%
↑	8	(11%)	157%

## ④ 男女比

性別	数	(%)
男性	37	(80%)
女性	9	(20%)

## ⑤ 年代別

年代別	数	(%)
20代	1	(2%)
30代	3	(7%)
40代	6	(13%)
50代	13	(28%)
60代	15	(33%)
70代	6	(6%)
80代	2	(4%)

## ⑥ 職業比

兼業者	20	(43%)
議員専業	26	(57%)

★ひと口に市議会と言っても、全体像を把握することは難しい。そこで、本会は最も基本的な数字と議員の居住地を地図上に表しました。

28. 市政50周年の歴史のなかでも、恐らく稀な事だったのではないか。市当局から提出された議案が全部で151件。指定管理者の指定関連の32件を除けば、あとは相模原市の諸条例を、津久井郡の2町を合併するために一部改正するものが大半であった。

29. 昨年2月臨時議会で合併を決めた市議会だが、これら多くの議案の常任委員会での「質疑」を傍聴して、いかに合併協議会で何も細部が調べられず、かつ検討されていなかったかを痛感した。議員諸氏も恐らく同感だったのではないか。

30. これらの諸議案について、各会派の代表者から総括質疑が行われたが、限られた時間内の質問だから、まさに通り一遍の総括に終わった。参考までに各質問者の関連質問対象議案数を一覧する。

<質問順>

折笠峰夫（市民クラブ）	45	議案
小林一郎（公明党）	47	議案
東條恵美子（無所属）	33	議案
松永千賀子（共産党）	131	議案
西村綾子（無所属）	131	議案
金子豊貴男（社民党）	131	議案
小池義和（民主クラブ）	119	議案
長友義樹（無所属）	33	議案
岩本香苗（ネット）	34	議案

以上9人が共通して取り上げていたのは、「指定管理者の指定」だったが、今回の指定に反対したものはいなかった。

31. 合併に伴う条例改正は99議案に及んだが、全てが可決された。国の指示のもと、己の姿かたちを事務的に変えようとする様は「地方自治」というよりは「親親会社に逆らえない下請け業者」を連想させる。

32. 基地問題に関して、行政と議員が一丸となって国に異議を唱えていく方針のようだが、合併は肅々と国の方針に従う与党会派が本当に国の意向にNOと言う度胸があるのか？与党会派で基地問題を取り上げた議員は今回も一人もいなかったことが、その度胸のなさを雄弁に物語っている。また質問に基地問題を取り上げた議員も心情の吐露に終始し、基地をなくすための具体的計画（青写真）までは提示できていない。

33. 市側の答弁は文章は長いが内容はYESでもNOでもない無意味なものが殆ど。市

長不在で誰も判断できない状況であることも察するが、これでは議会を開くこと自体が無意味なものになりかねない。議員は漠然とした質問は避け、訳のわからない回答を許さない緊張感をもって挑んでもらいたい。

34. 金子議員（社民党）キャンプ座間での女性暴行事件に関して、市とのやり取りの中で、横浜防衛施設局が、市への報告を意図的に行わなかったことが判明。相模原補給廠の自衛隊移転予定地が、カドミウムや鉛によって汚染されている危険性を指摘（この土壌浄化は市の負担だそうだ。）重要な問題だけに、今後もこういった具体的な質問で原因追求や問題提起をしてほしい。

35. 阿部議員（市政クラブ）：自分が誰よりも相模原を好きだという心情を吐露し、合併に際し、市民が新市誕生を祝う気持ちが無いことを憂う。更に市民が相模原を愛する気持ちを醸成するために「大好きです相模原」マークを作るべきだと主張。この議員の「ナショナリズム」的志向を感じる内容だったが、「ナショナリズム（愛国心）的発想で「パトリオティズム（愛郷心）」が醸成できるのか、そもそも疑問。

36. 由比議員（市政クラブ）：「団塊」を「ダンコン」と読み間違えたり、選挙投票の開票を速める方策に際し「一刻も早く自分の当落を知りたい、自分は12時近くにならないとテレビに映らない。」などの脇の甘い発言を連発して他の議員の失笑を買った。これでは傍聴に駆けつけた大勢の応援団も可哀相だ。

37. 菅原議員（公明党）：質問内容、市側回答ともに当たり障りがなく、印象・記憶に残らない内容。公明党会派の再質問の際の市長（市職員）に対する「ご答弁有り難うございました」の発言はいらないのでは。

38. 川田議員（市政クラブ）：南清掃工場の建て替えに関する施設規模の妥当性について質問への回答「市では一人当たりの一日のゴミの量を1.37kgと換算（県平均は1.87kg、国平均は1.59kg）」に対し「非常に良く分かりました」と聞き分けが妙に良かったのが印象的。最後は工事を強く推し進める発言で締められる。銀河アリーナを通年スケート場にする案の否定的回答には「私の提案で年間6千万円浮くのに」と語気を荒らげた反応とは対照的だった。

39. 加藤議員（公明党）：旧県立さがみ緑風園跡地への盲ろう学校設置に関して意欲的であった。医療行政や子どもに対する安全

対策など、至極正論を謳う質問だが、「これはどうなっている?」「こうなっています」という内容確認にとどまり印象に残らない。市側から発展的な具体案を引き出せるよう質問に工夫を。

40. 岩本議員 (ネット): 住民基本台帳の大量閲覧について、商業目的の閲覧の減少値が83%に止まった点について、なぜ期待したほど効果が得られていないのか言及したが、市のハッキリした答弁は聞けなかった。
41. 西村議員 (無所属): 基地問題については、市側との認識が同じであることを再確認するに止まっているように思えた。障害者自立支援法について、国の決めた負担増の部分を自治体が支援出来ないかという質問であったが、市の答弁は体よくかわす内容だった。
42. 菅野議員 (共産党): 介護保険について、国の決めた負担増の部分を自治体が支援出来ないかと聞いたが、同じく体よくかわす答弁だった。
43. 田中議員 (共産党): 基地問題では再編反対の再認識を得たに止まり、基地を無くすための具体的計画(青写真)までは引き出せなかった。米兵による日本人女性強制わいせつ事件の対応についても批判したうえで、日本の警察の甘さに対しても抗議すべきだと主張した。たしかに市側の答弁には「抗議」等の強い言葉は聞かれなかった。
44. 中村議員 (市政クラブ): 環境保全について、バイオマスタウン構想を手掛けるには都市部と農村部が一つになる合併は好機だと主張。色々なアイデアを提示し、

この分野について意欲的に勉強している片鱗が窺われた。

45. 松永議員 (共産党): 麻溝公園競技場について、建設見直しを主張。土地代が193億円、埋設された木屑の取り除きに6億円弱がかかる点を指摘。市民の施策要望の順位で「スポーツ・リクリエーションの充実」は24位であることを挙げ、市側の考えを質したが市側は「市民から要望がある」とチグハグな答弁だった。
46. 須田議員 (市政クラブ): 地元自治会の関係と思しき大勢の応援団が見守るなか大野地区から麻溝台・新磯方面への新交通システムやコミュニティーバス交通の更なる促進を細かな地名を挙げて提言していたが、議場での失笑を買った。  
(この議員は応援団の接待のため、本会議の最中30分近く離席していた。会議場でも頻りに傍聴席を振り返る落ち着きのなさが傍聴していたわれわれも呆れるほどであった。議員の本懐を忘れないでほしい)
47. 関山議員 (公明党): 子育てについて、更なる補助金の拡充を求めたが、市は財政難を理由に困難だと答弁した。市側の適当な対応文に簡単に納得してしまわれると、議員の熱意も疑わしくなる。要求するなら財政的にこうすれば可能と、裏付けの根拠を示すくらいの準備が必要だ。
48. 今井議長が、議案第117号の採決で、溝淵議員が離席中だったが、「起立総員」と宣言したが、どうなのか。(注)議会事務局によれば、着席議員の総員という意味で問題なしとの事だった。議会は議員個人の賛否は記録していないとのこと。 ■

## ■委員会 (感想と意見)

### ■総務委員会 (12月5日)

- 友成 (社民党)、阿部 (市政クラブ)、大上 (公明党) 委員らから指定管理者の選定の仕方の改善、任期3年の理由などについて質問があったほか、合併に伴う広報の取り扱いの質疑で終わった。

### ■民生委員会 (12月6日)

- 宮崎助役ら58名が市側席を埋めつくすいつもの委員会風景だが、女性職員は僅か2名。市組織に関するかぎり男女共同参画社会はまだまだ先の話だ。

- 最近では、議案審議に先立つ「補足説明」は極端に減ったのはいいが、たまに説明があっても、委員に事前配布してある資料の部分的朗読でしかない。勉強してこない委員には有り難いのだろうが、時間の無駄ではないか。
- 石井委員が、津久井の地域福祉センターについて「宝の持ちぐされ」と評していたが相模原市の施設についても精査して欲しいものだ。
- 川田委員は、相模湖リフレッシュセンターについて目的意識が曖昧だと発言していたが、これも同じことが相模原のことにも当てはまらないか。
- 議会では介護問題のエキスパートと称される溝淵委員が、合併する2町の要介護人数

は津久井が592人、相模湖が249人と紹介、2町の編入に伴う条例審議で、市に実態調査をシッカリするように要望した。

- 小林委員は児童館の館長選任の基準など質問したが、特にキチンとしたものは無さそう。委員会が推薦して担当部長が決定するとのことだが、委員会の役割は重要だ。
- 児童クラブ条例の審議では、松永委員が600円とはいえ、現在の社会状況では問題だとして、採決で反対したが、多数の賛成で可決した。説明等でこども施設課長が頑張っていた。

### ■環境経済委員会（12月7日）

- 質疑の主体は合併地域での問題が多かった。環境基本条例の見直し、相模湖林間公園の利用状況、相模原市とゴミ収集費用の差異などが時間をかけて質疑されていた。藤井、久保田隼、米山、東條、金子、岸浪、折笠各委員から多くの質問が出された。
- 質疑の内容から、委員（議員）たちが、合併是非を検討している間、一体なにを調査・分析して賛否の判断をしていたのかと驚く。「合併」の二文字に踊らされて、その実際の意味を理解していなかったのではないか。
- 小俣、小池両委員の声は聞こえなかったが、議論に着いていけなかったのか、いまさら議論でもないと考えたのか。それなら分からないでもない。

### ■建設委員会（12月8日）

- 議案は合併関連が主で、質疑もそれに終始した。
- 田中委員は、開発事業に関連、開発審査会による‘虫食い開発’防止の要望を出していた。
- 久保田義委員は市営住宅の老朽化対策について耐震診断の質問、関連して寺山委員から地震で住宅が崩れた場合どう対応するかなど質問したが、話は編入2町の住宅に限定された。
- 時あたかも耐震強度偽装問題で全国的問題になっている折、かつ本市の市民の少なくない人々が不安に思っているのに、委員のだれひとりこの問題に触れなかったことに非常に失望した。

### ■文教委員会（12月9日）

- 細谷達委員が、合併で新市になることに対する教育長の決意を聞いた。教育長は「私案」だがと断って、新地域の自然を活用した施策構想を披露した。それもいいが、その前に中学校完全給食実施が切実に望まれているのではないか。津久井の実績を後退させることなく新市全体に拡げ、中学生の「食育」に努める方が今は急務だ。
- 「指定管理者制度」で、中村委員の「この制度になったら変わったな！」と市民が感じられるように調整を」との意見の他、各委員が「利用者の立場に立った運営」、「アンケートによる利用者の意見聴取で徹底した安全管理」、「行政としての責任ある指導」、「よりよい制度への努力」などの要望を行った。  
教育委員会は、選考の際にいろいろな提案が出されているので、この制度になれば施設利用の活性化、サービスの向上が考えられると答えていた。今までは所詮お役所仕事だったということか。
- 岩本委員が学校のアス対策で質問した。市内では大野、淵野辺、谷口の3小学校で教室の天井裏に使用、今年の夏休みに除去作業の予定とのこと。津久井は63教室の除去作業。相模湖町は調査中。これらの補正予算は見積り中で、約2億円になる見込みという。

### ■議会運営審議会（11月11日、12月22日）

<11月11日>

- 議会の11月臨時会に掛ける意見書「在日米軍再編の中間報告に断固抗議し撤回を強く求める決議」についての委員会採決の直前突然石井運営委員長が、議員傍聴席の友成洋一議員に「友成さん、いかがですか」と意見を求めた。同じ席には岩本、東條、西村議員も居たのに、なぜ友成議員だけに声をかけたのか。異例のことだった。普段は挙手しても無視しがちな傍聴議員の扱いを考えれば、中立であるべき委員長としては不適切な采配であった。（この意見書は総員賛成で本会議にかけ採択された）
- ◎「議会制度検討協議会の結果報告について」という議案の発言の内容。（注・この問題はすでに2年も扱っている）
- 石井委員長＝協議の進め方を伺いたい。  
・小池委員（民）＝5月10日のレポートを詰



- めていき、速やかに決定を。
- ・松永委員（共）＝採決の方法は取って欲しくない。急がなくてよい。
  - ・川上委員（市）＝方向を決めたものはその柱を大事にして、出来るものから精力的にやりたい。まずやってみる。不具合は都度直せばよい。決めたものは後戻りはいけない。
  - ・石井委員長＝資料3で進めたい。（注・傍聴者は資料がないので内容不明）総括質問は代表質問制に移行....。
  - ・松永委員＝民主主義なので決まったことはやるしかない。
  - ・小池委員＝決めたことはやることに賛成。
  - ・議会事務局＝規則変更の必要あり。12月変更案提出あれば3月から可能。
  - ・東條議員（ワザール）＝時間が半分になるので大変だ。100以上の議案がある。議案の数とリンクさせられないか。
  - ・石井委員長＝意見として受けたまわる。
  - ・関山委員（公）＝6月議会からがよい。
  - ・松永委員＝時間配分が問題。無所属議員が後退しないように考えたい。
- 石井委員長＝次に一般質問について。
- ・川上委員＝21名まではよい。割り当てはこれからだ。会派の持ち時間は未調整だ。
  - ・関山委員＝全体にもう少し時間ほしい。
  - ・松永委員＝人数制限は良くない。議員個人の権利だ。持ち時間は20分を厳守したい。
  - ・小池委員＝会派内でまとまっていない。
  - ・西村議員＝何人希望しても3日間というのはおかしい。市民の納得がえられない。他の理由で日が取れないなら別だが。
  - ・岩本議員＝質問したい人が出来ないのはまずい。人数制限しないで！
  - ・石井委員長＝代案あれば...。
  - ・松永委員＝決めない方法もある。時間も考える余地ある。
  - ・稲垣委員＝これは検討課題として...。
  - ・石井委員長＝全員参加、民主主義は大切だ。でも会期内で収めることも大事。どこかで工夫が必要だ。
  - ・東條議員＝代表質問は10分で、一般質問を使いたい。その補完を考えて。
  - ・川上委員＝日程問題も含めて、委員会審議の前に持ってくることも出来る。今後の検討課題を除けばすぐ出来る。
  - ・石井委員長＝検討事項は持ち帰り、6月実施メドに進めたい。残余の検討事項

- も間に合わせたい。
- 石井委員長＝次に常任委員会について。
- ・松永委員＝委員会での時間短縮、制限は命とりだ。
  - ・関山委員＝時間制限は難しい。だれが時間を測るのか。
  - ・川上委員＝そのとおりだ。しかし研究課題にしたい。民生委員会は議案のボリュームが大きいから。
- 石井委員長＝参考人制度は従来通り。
- 石井委員長＝決算特別委員会は決定している。あとは委員構成がある。
- ・川上委員＝一問一答はよい。委員構成はもっと検討を要する。
  - ・関山委員＝委員構成、持ちかえりしたい。
  - ・松永委員＝委員構成はジックリと。
  - ・小池委員＝会派に持ちかえりしたい。
  - ・石井委員長＝一括審査については中身の検討しなかった。
  - ・議会事務局＝一括審査については、理事者（答弁要員）の数が100人以上になるのが心配だ。
- 石井委員長＝『市議会だより』について。
- ・川上委員＝出来ることからやりたい。基本的には前向きに。名前の明記は柔軟に。
  - ・関山委員＝出来ることからやっているようだ。県会並みという考えは同じ。
  - ・松永委員＝出来ることから。
  - ・小池委員＝出来ることから。
  - ・議会事務局＝6月メドに準備すすめる。
  - ・稲垣委員＝日程は詰まっているが、「議会制度検討」の特別の会を3月までに2～3日位集まってほしい。年度内に日程調整してほしい。

<12月22日>

- 川上委員＝本会議での「討論」について、議案に関係ない話があったので、議長からその議員に注意してほしい。
- 小池委員＝議題からの逸脱については反省している。会派（民主クラブ）として指導していく。みなさんにお詫びする。（编者注：ともに実名を明かさないが、大沢洋子議員のことらしい。） ■

★遅々として進まない議会制度の検討だが、今井議長の強力なリーダーシップと石井議運委員長のきちんとした会議の采配ができない限り、「日暮れて道遠し」だ。早ければ良い訳ではない。議員固有の権利は守る議会でありたい。 ■

今年も  
どうぞ  
よろしく

2006年1月



相模原市議会をよくする会  
会員一同

### 多摩のシンポジウムに参加 —昨年11月、多摩市永山で4市—

多摩市議会ウォッチングの会が主催した第2回シンポジウム(第1回は03年)「あなたが動けば議会が変わる」に、赤倉昭男代表(パネリスト)と二川昭三運営委員が参加した。参加市は多摩、調布、東大和の都下3市と相模原。各地の実情報告はじめ、議会改革の課題、傍聴制度、議員の資質など、市議も含め活発な議論が展開された。■

### 小川市長が公務復帰

— 3カ月ぶり、1月10日から —

昨春執務中に体調を崩し、市内の病院への入退院を繰り返していた小川勇夫市長が、1月10日から3カ月ぶりに公務に復帰した。

市長は慢性硬膜下血腫の本格的な治療のために、加山俊夫助役を職務代理者として置いて、12月の市議会定例会を休んでいた。

この間、相模原市と津久井郡2町との合併に係わる諸議案の審議や米軍の世界規模の再編問題といった重要問題が相次いでいたが、市長が特に強い意思で取り組んでいた市内の米軍基地問題については、額賀防衛庁長官の視察の際には病院の特別許可で立ち会うなど無理ともいえる対応をしていた。

市長不在の市議会は、傍聴席から見ても緊張感を欠くものであり、議員の中には「職務代理者はあくまでも市職員であり、市政方針で論戦を戦わす相手ではない」と話すひともいた。3月議会は元気な市長の出席により、生きた議会になってほしいものだ。■

### 編集後記

◆今年には相模原市民にとって特別の年になるはず。津久井町と相模湖町の人々との邂逅。森と湖のある街も悪くないが、編入される人々を語ることの少ない私たちのコミュニティー。「合併しなけりゃよかった」と言われたいようにしたいものだ。

◆今年こそ、議員の資質が明らかになる試金石だ。目が離せない。(赤)

### 3月定例会日程(開始は毎日朝9時半から)★陳情締切—2/7—

2月2日(木) 議会運営委員会	2月23日(木) 環境経済委員会
2月8日(水) 本会議(議案説明)	2月24日(金) 建設委員会
2月16日(木) 本会議(総括質疑)	2月27日(月) 文教委員会
2月17日(金) 本会議(予備日)	3月8日(水) 本会議(委員長報告)
2月21日(火) 総務委員会	3月9日(木) 本会議(一般質問)
2月22日(水) 民生委員会	3月10日(金) 本会議(一般質問、議運委)

### □入会申込書□

<入会金不要>

私は会の趣旨に賛同し入会します。(A, B どちらか ○をつけてください)

氏名 \_\_\_\_\_

A. 会員(傍聴など活動する)として

住所 \_\_\_\_\_

B. 賛助会員(講読、支援する)として

☎・FAX \_\_\_\_\_

●年会費(会員2000円、賛助会員1口1000円から)

★郵便振込番号:00280-6-48430 相模原市議会をよくする会

★申込み先= 相模原市議会をよくする会・事務局(代表/ 赤倉昭男)

〒228-0814 相模原市南台5-13-8 ☎/FAX 042-749-9140

HP=<http://yokusurukai-gallery.hp.infoseek.co.jp/>